

【大阪】大阪市立総合医療センター



当院の立地

当院は、関西最大のターミナル駅の大阪駅から電車でわずか3分（タクシーで1000円前後）の大阪府都島区にあります。阪神高速インターも近接しており、伊丹空港から車で20分であり、どの交通手段を使っても全国各地へのアクセスが抜群です。周辺に大阪城公園、淀川河川公園、中之島公園などランニングやサイクリングが盛んです。大阪湾は、釣りスポットも多くアングラーズにも最適の病院です。金剛山（日本有数の年間登山者数）や六甲山など山好きの方にも最適の病院です。泌尿器科病棟（18階建ての14階）からは、天神祭り奉納花火を眼下に眺めることができます。都会で働きながらもアウトドアも充実できる立地です。

当院の症例の特徴

当院には、医師が主体性をもって成長できる環境が整っています。泌尿器がん治療（ロボット支援手術、腹腔鏡手術、ミニマム創手術、ブラキセラピー、トモセラピー、医師主導臨床試験など）の豊富な症例数を経験することができます。同時に大阪市の公的病院であるため、結石、前立腺肥大症に対するTUL、ECIRS、CVP（接触式レーザー前立腺蒸散術）などの良性疾患に対する手術もレジデントの間にとっぴりと経験できます。腎臓高血圧内科（医員10名）の活躍も受けて慢性腎不全の透析導入期の管理、維持透析患者の併科入院時の管理（血液透析、腹膜透析）、年間20例の腎移植（生体腎移植、脳死腎移植、献腎移植）まで幅広く症例を学ぶことが可能です。小児泌尿器科領域も充実しており、先天性尿路奇形の手術、小児尿路結石治療などレアな疾患の症例も相当数経験できます。若手医師

は、グループ分けをせずにすべての分野の担当医しながら手術に入ることができるので圧倒的な症例数で学び、修練し、経験を積み、技術を深めていくには最適の施設と思います。

当院の教育の特徴

医局に常設する腹腔鏡ドライボックストレーニングと個人用トレーニングボックスを各人に用意しています。ダヴィンチデュアルコンソールシステムで若手医師にロボット支援手術をstep by stepで指導しています。医局と手術室が近いのでいつでもスキルシュミレーターで練習できます。地下1階動物実験施設でwet labトレーニングや基礎実験も可能です。大阪市立大学泌尿器科関連病院と連携した研究会での発表の機会も多く、プレゼンテーションスキルも高めることができます。これまでに多数のレジデント、シニアレジデントが、腹腔鏡技術認定取得しています。大阪市立大学大学院医学研究科泌尿器病態学へ進学し、海外留学する道もあります。今後もさらに業務を拡大して地域医療の充実と安全な医療技術の普及に貢献できればと考えています泌尿器科に興味のある学生さんや初期研修医の先生は、是非、見学や研修に来ていただければと思います。

当院の指導医の資格（重複あり）

- 日本泌尿器科学会腹腔鏡技術認定審査員1名
- 日本泌尿器科学会腹腔鏡技術認定制度認定医6名
- 泌尿器ロボット支援手術プロクター1名
- ロボット支援手術Certificate取得6名（術者）
- 日本泌尿器科学会専門医・指導医9名
- 日本透析医学会専門医・指導医4名
- 日本泌尿器科学会専門医1名
- PVPプロクター1名
- 日本小児泌尿器科学会認定医2名
- 日本移植学会認定医2名
- 日本臨床腎移植学会腎移植認定医
- 腹腔鏡下小切開手術施設基準医2名

【大阪】大阪急性期・総合医療センター泌尿器科



大阪急性期・総合医療センターは、昭和30年1月に大阪府立病院として開院し、平成15年10月に大阪府立急性期・総合医療センターに名称変更、平成18年4月に地方独立行政法人に移行し、平成27年に創立60周年を迎えました。平成29年4月に病院名から府立がとれて現在の名称になり、平成30年4月から大阪府市共同住吉母子医療センター（南館）がオープンしました。「急性期医療から高度な専門医療まで、総合力を生かして良質な医療を提供するとともに、医療人の育成と府域の医療水準の向上に貢献する。」という理念の下、現在35診療科865床の総合病院となっています。

泌尿器科は、常勤医7名、レジデント2名の総勢9名で診療を行っています。毎年泌尿器科希望の初期研修医がおり、これまではそのままレジデントへ移行する事が多かったのですが、新専門医制度が開始され大阪大学泌尿器科専門研修プログラムの連携施設になりそのプログラムに則りレジデントが研修に来ることになりました。

当科では、急性期病院としての一般泌尿器科および泌尿生殖器癌、腎移植が診療の柱になっております。生検やESWLを除く手術件数は、年間600件以上であり、膀胱がんに対するTUR-Btが200件以上と最も多くなっています。2012年6月から手術支援ロボット「da Vinci S」を導入し、ロボット支援下腹腔鏡下前立腺全摘除術を開始しました。2014年4月からは後継機種種の「da Vinci Si」に変更し、これまで合計450例以上の手術を行っています。小径腎がんに対しても2013年末からロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術を開始し、66例に施行しました。2018年6月から膀胱がんに対するロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘除術も開始しています。2014年10月から膀胱癌と前立腺癌に対する術後の地域連携パスの運用を開始し、当センターと連携病院・診療所間でのネットワークの構築により、機能分担、役割分担を図っています。

尿路結石治療は、ESWLは全例外来で施行しています。2014年からホルミウムヤグレーザーおよび細径軟性尿管鏡を導入し、fTULが多くなっています。2017年3月に細径の腎盂鏡を導入し、さんご状結石などに

はPNLも行っています。

レーザー導入に伴い前立腺肥大症に対しても従来のTUR-Pのみではなく、経尿道的ホルミウムレーザー前立腺核出術（HoLEP）が中心になっています。

腎移植は1984年より開始しており、献腎、生体腎合わせて400例以上行っています。最近では、年間15-20例の移植件数でその多くが生体腎移植です。慢性腎不全と診断されてから透析療法を一切行わずに腎移植を受けられる症例（先行的腎移植）やABO不適合生体腎移植症例が増加しております。

平成30年10月から公的病院では数少ない生殖医療センターが開設されました。産婦人科と連携して、治療にあたります。男性不妊症に対する精索静脈瘤手術（顕微鏡下あるいは腹腔鏡下）や非閉塞性無精子症に対する顕微鏡下精巣内精子採取術などにも開始します。

守備範囲を広く総合的にどのような泌尿器疾患でも診療できるようにスタッフ一同力をあわせて頑張っていきたいと考えています。当科の最新情報は、HPやFacebookでもご覧いただけます。興味ある方は検索してみてください。



【愛知】 JA 愛知厚生連 海南病院



JA 愛知厚生連 海南病院は、愛知県の西端に位置し、海部郡のみならず、名古屋市西部から三重県北勢地域（桑名市、桑名郡木曾岬町）の広域にまたがる医療圏をもち、急性期医療を担う基幹病院です。病床数は540床（一般病床534床、感染症病床6床）で、泌尿器科スタッフは5名です。

平成25年5月からダヴィンチSiが県内で3番目に導入され、平成30年10月現在、340例を超えるロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術が施行されています。サージョンコンソールを2台もつ、デュアルコンソールシステムとなっており、術者は上級医から指導を受けながら、手術を行うことが可能です。また、スキルシュミレーターが搭載されているため、若手医師だけでなく、医学生や研修医がダヴィンチのシミュレーション教育を受けることができます。

当科は、名古屋市立大学泌尿器科専門研修プログラムの研修施設の一つとなっており、当科の後期研修では、入院患者を5-10人、担当し、週3回の外来診療、検査、週4件以上の手術に入ることになります。専門医取得前の先生が2年間在籍すると、経尿道的手術、TUL、PNLECRIS、腹腔鏡下腎摘除、開腹腎摘除術、膀胱全摘除術などの主要な成人泌尿器科疾患の手術や、小児泌尿器科領域についても、専門医のもと、停留精巣、陰嚢水腫、真性包茎などの先天性疾患に対する手術や、顕微鏡下精索静脈瘤低位結紮術といった男性不妊症治療も経験できます。週2回、名古屋市立大学病院から指導医クラスが手術支援に来ていただいております。複数の指導医が手術にはいることで、安全な医療に配慮したうえで、手術経験を積むことができます。

また、地域がん診療連携拠点病院として、地域の期待に応えるために、新規の薬物治療についても、迅速に導入されます。当院には、キャンサーボード、麻酔科が管理する充実したICU部門、画像診断、放射線治療、IVRの専門医、緩和医療専門医がそろっており、様々な専門家と連携して、最善の治療を求める癌患者に主治医として向き合い、診療をおこなうことが可能です。一人一人の患者さんに真剣に向き合うことで、泌尿器科専門医に必要な実力を自然に身につけることができます。後期研修は、初期研修とは違い、外来から入院まで主治医として診療をおこなうため、必要な知識や手技も多様で、はっきりいって大変ですが、若手も多く、

上級医にも相談しやすい環境があり、必要におうじて、上級医と一緒に診療することで責任をもつ体制です。

当科は、業務時間内はフリーな時間はなく、院内でも忙しい科ですが、近年の社会情勢から、当院においても「働き方改革」が進んでおります。時間外労働時間は45時間以内に抑える、当直明けは半休をとること等が求められており、みんなで協力することで対応しております。また、夜間、週末は、当番制をとっており、プライベートな時間にあてることも、学会準備や論文作成、名古屋や遠方でおこなわれる講習会や学会などにも参加することもできます。若手の先生も多い病院なので、飲み会、病院旅行、ゴルフコンペなどのイベントも多数あり、業務を分担して、それぞれ参加して楽しんでいます。最近、ITに詳しい若手が中心になり、手術動画を共有し、復習したり、腹腔鏡をもちいて、折鶴を折るタイムトライアルにチャレンジしたりと、常により良い診療を目指す雰囲気があります。

このように、海南病院の後期研修は、いろんな意味でバランスがよく、おすすめです。私達といっしょに泌尿器科専門医をめざしていませんか？

平成29年度 手術件数	
体外衝撃結石破碎術	158
経尿道的尿管結石破碎術	37
経尿道的膀胱腫瘍切除術	175
経尿道的前立腺切除術	34
腹腔鏡下腎摘除術	20
腹腔鏡下尿管摘除術	18
腹腔鏡下膀胱全摘除術	5
ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術	76
ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術	6



【熊本】熊本大学医学部附属病院 泌尿器科



熊本大学医学部附属病院について

熊本県熊本市にあり、白川を挟んで下通・新市街などの繁華街という絶好の立地にあります。目下病院の建て替えも順調に進んでおり、外来棟や医局棟は築2年、病棟も築7年と新しく、免震構造のため先の熊本地震にも変わることなく佇んでおります。

熊本大学泌尿器科学教室について

1923年9月に皮膚泌尿器科学教室として新設され、1961年7月に皮膚科と泌尿器科として分離され現在に至っています。2016年10月より神波大己教授が第5代教授として就任され教室を率いています。神波教授の専門が泌尿器科癌(腎癌、前立腺癌)ということもあり、癌診療を大きな柱にしています。また熊本大病院における血液浄化療法も担当しており、当教室より西一彦准教授が担当しており、腎移植手術も行っています。

先駆的な臨床・基礎研究としては、当大学の国際先端医学研究機構の馬場理也先生との共同研究で転座型腎癌の発癌メカニズムの解明に取り組んでいます。その他、熊本大学は伝統的に遺伝学や免疫学などの基礎医学に強いことで知られており、大学院生として進学することも可能です。

臨床面では内視鏡、腹腔鏡手術が多く、泌尿器腹腔鏡技術認定医も6名在籍しており、症例数や教育サポートは充実しています。毎年1~2名は腹腔鏡技術認定申請できるような体制がとれています。また、2013年より手術支援ロボットであるダヴィンチSiシステムが導入されており、前立腺癌手術では計360例、腎癌では計36例、本年より膀胱癌手術でも導入開始され、これまで計2例に行われており、癌に対する最新の手術が行われています。

県内から珍しい症例、治療が困難な症例も集まってきており、局所進行性癌のために開腹手術で行うものや、消化器外科、血管外科、産婦人科との共同で行う手術も一定数あり、多様な症例を経験することができます。尿路結石手術もTUL、PNL、

ECIRSと各種内視鏡手術を積極的に行っております。TULは年間40件、PNL+ECIRSは年間10件ほどです。

臨床研修プログラムについて

熊本大学泌尿器科専門研修プログラムは、熊本大学病院を基幹病院とし、県内全域の13施設の研修連携施設から構成されています。4年の研修期間のうち初年度、または2年目の1年間を基幹教育施設で研修することを原則としていますが、残りの期間を基幹病院もしくは研修連携施設で研修をお願いしています。それぞれの研修施設が得意分野をもち、例えば症例が集まる癌腫がみられたり、腹腔鏡手術、尿路結石手術、放射線治療、救急疾患などの特長を持ちつつ全般的な泌尿器科診療も行い切磋琢磨しています。

診療拠点病院

熊本市市民病院
熊本赤十字病院
熊本総合病院
熊本中央病院
熊本泌尿器科病院
熊本労災病院
国立病院機構熊本医療センター
済生会熊本病院
水俣市立総合医療センター

教育関連施設

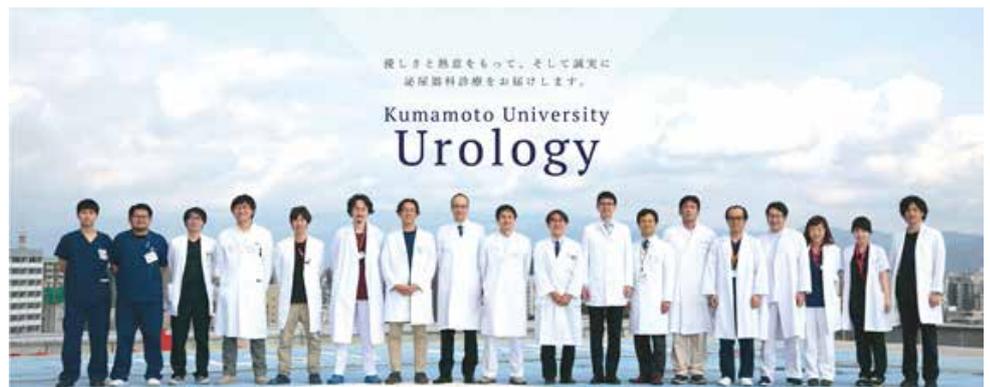
天草地域医療センター
川野病院
公立玉名中央病院
平山泌尿器科医院

詳しくは熊本大学泌尿器科HP (<http://kumamoto-urology.com/>)内の「研修医・学生の皆様へ」をクリックしていただけますと研修プログラム原本が詳しく載っておりますのでご覧ください。私たちと一緒に熊本で泌尿器科医としてのキャリアをスタートしてみませんか。若い先生方が活躍できる場所です。

連絡先

泌尿器科医局 TEL: 096-373-5241
FAX: 096-373-5242

教育医長 山口 隆大 Mail: yanc5th@yahoo.co.jp
医局長 杉山 豊 Mail: sugiyuta@kumamoto-u.ac.jp



【東京】昭和大学泌尿器科



みなさん、こんにちは！ 昭和大学医学部泌尿器科学講座で医局長、診療科長補佐を務めています森田順です。泌尿器科の魅力について語っていくこの紙面上において、今回は泌尿器科と他科との医療連携を中心に述べて行こうと思います。「医療連携」などと堅苦しく表現してしまいましたが、要は、他科との「関わり」や「結びつき」についてです。泌尿器科の扱う分野は腎尿路生殖器系が中心ですが、良性疾患から痛まで、外来、病棟、検査室、手術室など院内を縦横無尽に飛び回り、内科系の全身管理からロボット（ダヴィンチ）を始めとした最先端の外科手術までをも行う非常に魅力的な科であることは多くで述べられてきたことと思います。では、他の科の先生方との接点はあるのか？ そういった点を中心に考えてみたいと思います。

泌尿器科の扱う領域は、横隔膜下から骨盤まで幅広くに渡りますが、それでも腎尿路生殖器なので、よく言われる後腹膜腔というのは、体の後ろであり腎臓レベルのCT横断面で見ても全体の4分の1にしか過ぎません。実際に大きな空間があるわけではなく、いわば前面にある腹腔と背筋や脊柱との間に挟まれた“隙間”なんです。それでも後腹膜臓器には我々泌尿器科が扱う腎臓、尿管、膀胱をはじめ、消化器外科が扱う十二指腸や膵臓、上行結腸、下行結腸、更には大動脈や下大静脈なども含まれ、隣り合う臓器も非常に多彩です。こうした背景を考えても癌や炎症など全身管理も扱う泌尿器科では、症状別や疾患別、状況別に、全ての診療科と関わり合うことがあると言っても過言ではありません。日常診療において他科に依頼をすることもあれば私たちが専門領域に関する依頼を受けることもあります。実際に泌尿器科の立場から手術の場面に絞って他科との連携を考えてみると3つの状況が考えられます。まずは、横断領域に対して他科との合同手術を要し予め計画を立てていくような

状況です。扱う科が異なることや自科のみで対処可能など施設間による差異もありますが、例えば血管外科と絡む大きな腎癌や消化器外科と絡む消化器臓器との癒着性病変や骨盤内腫瘍などが挙げられます。続けて2番目は、泌尿器科手術中に他臓器との癒着や損傷のため他科に応援を緊急要請することであり、消化器臓器における消化器外科への要請などがそれに当たります。最後3番目は、我々泌尿器科が他科の手術中や術後合併症で応援要請を受けることであります。バルントラブルの頻度が多いですが、その他、尿管損傷や膀胱損傷、泌尿器臓器への癒着などが挙げられます。このように手術の場面だけを取り上げても多種多様な状況があり、泌尿器科も様々な疾患、状況において普段より他科との医療連携を構築していくことは必要不可欠なのです。

泌尿器科が関わらない科はありますか、、、内科系は全て関わることがありますし、敢えて挙げるのであれば、眼科、、、いえいえ、眼圧などの精査で紹介状書くこともありますし、耳鼻咽喉科、、、いえいえ、ムンプスからの精巣炎はよく教科書に書いてありますよね。それに耳鼻科は私に関して言えば外来も病棟も共有しているお隣りさんです（笑）。先ほど挙げた手術場面以外にも他科とは様々な関わり、やり取りがあります。助けることもあれば、助けられることもある、そんな多くの結びつきを感じられるのも泌尿器科の魅力です。泌尿器科になって、「バルンが入りません」「尿管ステントを入れてください」と言われて登場し、泌尿器科の「技」を魅せるのはカッコイイですよ。

最後になりましたが、私は長らく大学病院で勤務しています。昭和大学病院は東京の品川区に位置し、周辺は住宅街で環境も良く、かつ都心へのアクセスもどこでもほぼ30分以内と恵まれています。約1000床の病院には全ての科を揃え、最先端の治療や研究に励みながら、先程もお話したように多くの科の先生と関わり合いながら切磋琢磨しています。常に他科との関わりも大事にし、その温かさの中で医療が行えるのも泌尿器科です。皆さんも是非泌尿器科医を目指して下さい！



【福島】竹田総合病院

福島県立医科大学医学部 泌尿器科学講座

～関連病院 竹田総合病院の紹介～

はじめに

私は平成22年に福島県立医科大学を卒業し、市中病院での2年間の初期研修を経た後、平成24年に福島県立医科大学医学部泌尿器科学講座に入局しました。現在は、医師としては9年目になりまして、平成30年4月からは関連病院の竹田総合病院泌尿器科で勤務しております。竹田総合病院は、福島県の西側の会津地方にあり、この地方の中核を担っている総合病院です。今年でちょうど創立90周年を迎える、歴史の深い病院でもあります。

今回、福島県立医科大学の関連病院の一つである当院の紹介ということで、特に“後期研修医の研修病院としての魅力”に焦点を絞ってご紹介していきたいと思います。

①病棟診療

竹田病院泌尿器科は現在、常勤の泌尿器科が4名（指導医4名、専門医1名、専攻医1名）在籍しており、うち2人が福島医大泌尿器科からの派遣になります。この病院は、837床と規模の大きな総合病院であり、その内泌尿器科の病棟患者さんは平均30名前後となっています。主に、悪性腫瘍（腎癌、腎盂癌、尿管癌、膀胱癌など）の患者さんが7割近くを占めており、ほとんどが手術を必要としている方です。そのほかに、結石の治療も積極的に行っています。この地域では結石の治療（手術、体外衝撃波）を行なっている施設は限られているため、当院に治療症例が集まってきます。その他、尿路感染症（結石関連含む）や腎外傷といった救急患者さんの入院も比較的多く、積極的に治療にあたっております。疾患の多様さという意味では、後期研修医が経験すべき症例の大部分を経験できる環境です。また、指導医の先生方も病棟診療に携わっていますので、不明な点はどんどん質問できる体制になっていること魅力かと思えます。

②手術

当院では、会津地方の中で積極的に手術を行っている病院であり、年間約700例前後の手術症例があります。悪性腫瘍手術（腎癌、腎盂癌、尿管癌、膀胱癌など）、尿路結石症などがほとんどですが、その他にも前立腺肥大症の手術なども多くあります。後期研修医としては、経尿道的手術（TUR-BT, TUR-P, TUL）や、前立腺生検、腹腔鏡手術（腹腔鏡下腎摘除術など）といった手術を、段階的に指導しながら経験できます。また、ロボット支援手術も積極的に行っているため、より経験のある先生方にとっても魅力的かと思えます。

③外来診療

後期研修医にとっての外来経験は、非常に大きなウエイトを占めると思います。というのも、初期研修医時代は救急診療には積極的に携わるものの、各科のより専門性の高い診療に携わる機会はほとんどありません。そのため、手術症例一つとっても、術前にどのようにマネジメントされるか、また術後の経過をどのように追っていくかなどを経験できる外来診療は大変貴重です。外来診療は、一人一人がそれぞれ自分の外来を割り当てられており、責任を持って診療する形をとっています。もちろん、診療の中で不明な点は積極的に指導医に質問できる体制もとっていますので、その心配はほとんどありません。

④救急診療

当院は2次救急病院ですが、毎日多くの救急患者さんが受診されます。泌尿器科分野では、主に尿路感染症（結石関連含む）が多いですが、その他に急性陰囊症（精索捻転症、精巣上体炎など）、腎外傷など、泌尿器科的緊急疾患の患者さんもいます。後期研修医にとって、特に泌尿器科的緊急疾患の対応は、早期に習得すべき経験の一つです。また、救急診療において他科との連携も非常にスムーズであり、一人の患者さんに包括的な診療を行える体制が確立されています。

おわりに

当院は、病棟・手術・外来いずれも症例数が多く、後期研修医の勉強する施設としては魅力的かと思えます。また、福島県立医大病院との連携もあり、稀少な症例などは相談できる環境にもあります。興味のある方は是非見学にいらしてください。





【千葉】千葉西総合病院



千葉西総合病院泌尿器科専門研修プログラム 「3つの大きな特徴」

- ☞ ①プログラムは、千葉西総合病院を中心とし5つの病院から構成
- ☞ ②地域医療との連絡、他の専門医への紹介・転送も的確に行える能力を身につけられる
- ☞ ③4年間の研修終了後も泌尿器科臨床を継続する臨床修練コースを選択可能

本プログラムは、千葉西総合病院を中心とし、千葉県房総地域の拠点病院である帝京大学ちば総合医療センター、千葉県館山市地域医療を担う僻地地方病院の館山病院、印西市地域医療を担う成田富里徳洲会病院と神奈川県鎌倉市地域の中核病院である湘南鎌倉総合病院の5病院から構成されている。4年間のうち、基本的には研修基幹施設で3年間研修医を行い、研修2年目もしくは3年目に研修連携施設での研修を行う。研修連携施設での研修では、基幹施設だけでは経験しづらい一般的な泌尿器科疾患・処置・手術について学んでもらいたい。また、泌尿器科専門医に必要な知識や技能の習得と同時に、地域医療との連携や他の専門医への紹介・転送の判断も的確に行える能力を身につけることができるよう配慮している。プログラム研修終了後も泌尿器科臨床を継続する臨床修練コース(※)を選択することが可能である。

施設名	病床数	臨床研修指定病院	専門研修指導医数	今年度の専攻医数
千葉西総合病院	608	○	3	0
湘南鎌倉総合病院	619	○	2	0
館山病院	208		1	0
合計	1435		6	0

施設名	日泌学会施設区分	外来患者数(月毎)	年間手術件数	がん治療認定医	腹腔鏡技術認定医	手術支援ロボットdaVinci	体外衝撃波結石破碎装置	ホルミウムレーザー
千葉西総合病院	拠点	1534	900	1	1	1	1	1
湘南鎌倉総合病院	拠点	1200	600	0	2	0	1	1
館山病院		290	24	0	0	0	0	0
合計		3024	1524	1	3	0	2	2

プログラムに属する連携研修2施設についての連携施設概要

- ・日本泌尿器学会 拠点教育施設を満たす
診療拠点病院：湘南鎌倉総合病院
- ・地域医療病院：館山病院



朝のカンファレンス

臨床修練コースについて(※)

千葉西総合病院の特徴として、国内で先駆けて最新ロボット手術支援システム「ダビンチ Xi」を導入。2018年10月時点では1台だが、今後「ダビンチ Xi」をもう一台導入予定である。

2018年9月現在、2016年導入時より前立腺がん212例・腎臓がん39例、本年から保険適用となった膀胱がん11例の実績がある。また、泌尿器のがんは比較的高齢者に多く、他の疾患を併発しているケースが多い為、他院では手術が難しいケースが多いが他の診療科と密に連携をした治療を行っている。あらゆるケースに対応できる体制が整っているのも本院の強みと言える。



ダビンチ手術中の風景

もう一つの特徴は、男性の更年期・機能障害などの男性専門外来開設している所である。前立腺手術後や生活習慣、加齢などを原因とする男性ホルモンの低下によって起こる症状の治療にも力を入れている。今後、ED治療においては服薬だけではなく、最新の体外衝撃波療法(ED1000)も導入予定である。



ダビンチ Xi

【愛知】名古屋市立東部医療センター 泌尿器科



泌尿器科の目標は「受診される市民の皆様の身体的・社会的な負担を最小限とし、市民の皆様の望まれる最高の医療を提供させていただくこと」です。5名の泌尿器科医により、専門的診療を行っています。常に1-2名の研修医も勉強しております。

【当科の特色】

1) 内視鏡による腎・尿管結石治

毎年約120件の内視鏡手術を行っています。愛知県内でも屈指の症例数を誇っていますので、安全・確実な治療を受けることができます。

2) 腹腔鏡による低侵襲治療

あらゆる泌尿器科および良性疾患に対し腹腔鏡手術を行っています。名古屋市内でも腹腔鏡手術を初期から導入しており、患者さんの社会復帰に有利な低侵襲治療を受けることができます。腹腔鏡技術認定も3名常勤しております。

3) 女性泌尿器科診療

女性の腹圧性尿失禁、骨盤臓器脱(膀胱脱、子宮脱、直腸脱など)など、骨盤底筋のゆるみが原因の手術治療を積極的に行っています。腹腔鏡下仙骨陰固定術は愛知県内では2番目に導入し、多数の治療実績を誇っています。女性泌尿器科医師も常勤しています。

4) ホルミウムレーザーによる前立腺肥大症手術

ホルミウムレーザーを用いた経尿道的内視鏡治療を行っています。通常の電気メスを用いた手術と異なり、出血が少なく短期間の入院で治療が可能です。

5) 小腸を利用した新膀胱作成

膀胱癌患者さんに対しては、ストーマ(尿をお腹から出す方法)ではなく、積極的に新膀胱を小腸で作成し、良好な排尿とQOLを実現しています。



【大分】別府湾腎泌尿器病院 (BBUH)



特色

当院は大分県別府市を南北に走る湾岸道路のほぼ中央地点に位置し、東に別府湾、西に湯けむり上る別府の街並と緑濃い山々を見渡す地にあります。



病院5Fより別府湾を望む

わずか60床の小規模な病院ですが、泌尿器科専門領域を柱とすべく前身の内科系病院と検診施設を統合し、病院名を新たに2018年2月にスタートしました。体外衝撃波結石破碎装置やレーザー碎石・前立腺蒸散装置の他に、最新の3D腹腔鏡手術装置やMRI-エコー融合画像ガイド下前立腺生検装置、あるいは手術支援ロボットda Vinciを導入し、手術を主体とした世界標準の泌尿器科診療を行うことを目指しています。



病院全景

開院間もない当院は当該医療圏において、駆け出しのルーキーと言った存在です。しかし、これまでの約10ヶ月間に50例超のロボット支援前立腺全摘術を含め約250例の手術を行っています。医療チーム全体が日々成長していくやりがいのある病院と自負していますが、今後さらに地域を超えて患者さんに選ばれる病院となるべく、知識と技術を結集して実直に診療に取り組んでいます。



第2手術室

研修・教育体制

当院は日本泌尿器科学会より認定を受けた泌尿器科専門医教育施設ですが、2019年度より大分大学腎泌尿器外科学講座を中心とす

る大分県泌尿器科専門研修プログラムの教育関連施設としての役割を担う予定です。腹腔鏡手術やロボット支援手術に限らず、開放手術にも習熟した3名の泌尿器科専門医・指導医が現在1名の後期研修(専攻)医を手厚く指導しています。



専攻医と指導医

週1回のカンファレンスでは麻酔科専門医およびコメディカルスタッフと共に症例ごとにディスカッションしながら、各疾患に関する知識を深めています。最近病理検査部門を立ち上げ病理カンファレンスを始めました。さらに今後は病理医の協力を得ながら臨床病理学的な研究を指導していきたいと考えています。当院は、他科の医師と密な協力体制にあることも研修上のメリットであろうと考えます。並存疾患を持つ患者の周術期管理において内科医や麻酔科医から学ぶことは多く、全人的医療の視点を持つ良い機会になると考えます。同時に、当院の規模では他科の医師やコメディカルスタッフとの信頼関係がなければ先端的医療を展開することは困難であり、チーム医療の実践に必要な知識とコミュニケーション能力を高め、将来リーダーとして活躍できる医師を育成することが目的の1つです。



病棟スタッフと



向かいの公園

生活の場として

当地の恵まれた自然と温暖な気候は、食と住、そして余暇を過ごす理想的な環境であろうと思います。毎日働きづめでは豊かな人間性は育めないと考え、協力して休暇を取る体制にしています。土日は交代制で診療に当たり、連休が取れるよう配慮し、また年間に1週間の連続休暇が取れるようにしています。学会出張も積極的に支援しています。既に主要な国内学会で当院の取り組みを発表していますが、発表のない学会でも興味があれば国内外問わず参加することを推奨しています。国際学会への参加は向学心を刺激し、教養と栄養を得る絶好の機会と考えており、1週間の休暇とは別に、初年度から医師は全員1度は国際学会に出席できる体制としています。

研修を希望する方も同様に休暇をとり、学会にも参加してもらいます。家庭の事情も十分に配慮し、子育て中の医師は男女問わず、それぞれの事情に応じて無理のない研修内容を組みたいと考えています。当院での経験が豊かな人生の一部となるよう、厳しく、そして優しく指導しますので、興味のある方はいつでもご連絡下さい(佐藤文憲 fs@oita-u.ac.jp)。